## ICカード公衆電話機

1999

**1999年（平成11年）**
平成11年3月から、非接触式のICテレホンカードを使って通話する新しい公衆電話機がお目見えした。従来の公衆電話機に比べ、小型化するとともにICカード本来のセキュリティーに加えネットワークを通じて結ばれるセンターでカード1枚ごとに情報を管理し万全のセキュリティーを実現。抜本的な変造テレホンカード対策を図った。

**特徴**
日比野克彦氏によるカラフルなカラーデザイン（2種類）を採用。赤外線通信機能（IrDA)を標準搭載し、携帯情報端末とケーブルレスで通信が可能。ICテレホンカードはカードポケットに2枚まで同時に入れることが可能。

## 新形ディジタル公衆電話機

2005

**2005年（平成17年）**
平成17年4月から、ユニバーサルデザインを採り入れた新しいディジタル公衆電話機を導入した。

**特徴**
大きく見やすいダイヤルボタンと文字、凹凸でわかりやすく、投入しやすいガイド付きコイン投入口、暗い場所でも見やすいオレンジバックライトの液晶ディスプレイ等、だれもが使いやすいユニバーサルデザインとなっている。
また、一目で公衆電話とわかるグリーンのカラーリングを採用した。

## 新形アナログ公衆電話機

2016

**2016年（平成28年）**
平成28年2月から、新形ディジタル公衆電話機の筐体を流用したアナログ公衆電話機を導入した。

**特徴**
新形ディジタル公衆電話と同様の外観を流用し、回線種別のみアナログを採用。

## 公衆電話料金

| | 1997年 | 2014年 | 2019年 | 2024年 |
|---|---|---|---|---|
| | 通話料金の改定 | | | |
| 市内 | | 2014年4月から57.5秒につき10円 | 2019年10月から56.0秒につき10円 | 2024年1月から全国一律56.0秒につき10円 |
| 市外 | 1997年4月から2014年3月まで20km以内の通話が42.5秒につき10円等 | 2014年4月から20km以内の通話が40.5秒につき10円等 | 2019年10月から20km以内の通話が39.5秒につき10円等 | |